

Literature cited

- Kurita, S. 1963. Journ. Coll. Arts Sci. Chiba Univ. Nat. Sci. Ser. 4: 43-52.
 —. 1967. Ann. Rep. Foreign Stud. Coll. Chiba Univ. 2: 57-61. Manton, I.
 1950. Problems of cytology and evolution in the Pteridophyta. Cambridge
 Univ. Press. Mitui, K. 1965. Journ. Jap. Bot. 40: 117-124. —. 1968.
 Sci. Rep. Tokyo Kyoiku Daigaku Sec. B. 13: 285-333. 隠岐島教育委員会.
 1971. 島前の文化財 1号: 18. Patnaik, S.N. & Panigrahi, G. 1963. Amer.
 Fern Journ. 53: 40-46.

* * * *

日本産エゾデンド属のうち4種類について染色体数を調べた。すなわちアマミアオ
 ネカズラは $n=36$, $2n=72$, ミョウギシダは $n=37$ でいずれも2倍体である。オオエ
 ゾデンドは $n=72$ で4倍体であり、これは Manton (1950) の結果と一致した。タク
 ヒデンドは体細胞が $2n=111$ であり、またこのシダは減数分裂が異常でその染色体接
 合は $37\text{I}+37\text{II}$ を示した。よってこのシダは3倍体雑種と推定される。

□ Hiroe, M.: **Umbelliferae of World**. 2,128 pp. 1979. Ariake Book Co.,
 Matsuo Biru, 8-10, Hongo 6-chome, Bunkyo-ku, Tokyo. ¥50,000. 世界のセリ
 科植物という壮大な規模の著書である。属と種の検索表、種の記述、異名、引用標本を
 網羅したもので、209属、1250種について書かれている。別に新名として名のみあげた
 ものが250種あるから、1500種についてふれている。序文によると、世界に220属、約3500
 種あるというから、半分弱について解説したことになる。広江美之助氏の研究の総決
 算と思われる。多数の新名があり、新属も一つ書かれている。種の範囲が大きく、人
 によりその取りかたを問題にするとしても、セリ科の研究には欠かせない著書であろう。

セリ科は属の分類が非常にむずかしいものなので、属の分類の基準をくわしく述べて
 はしなかった。検索表ではその辺の事情は全くわからない。被子植物の分類大系が解説
 してあるが、この本にとっては異質であり、表面的に被子植物の分類系を論じるより、
 セリ科の分類系を明らかにする方が、この本の内容としてはより重要であろう。新組
 合せの大部分は文献があげてあるだけで、記述も引用標本もない。星じるしがつけて
 あるが、これがなにを意味するのか説明がみつからない。これにのみ引用標本がないこ
 とからすると、実際に標本を見ていないものにつけたのだらうと考えられる。そうとす
 れば新組合せをするのは、命名規約に違反はしていないが、全然ふれなかった種類も加
 えて全体の考察の上で記してもらいたい。日本の植物は別に和文で解説してある。種
 を大きく見るのはよいとして、地方変異などは全く無視している。多くの地方変異がわ
 かっているのだから、少なくとも日本国内での種内変異を明らかにすることも、セリ科の
 専門家として当然なすべきものと思う。専門家の著書としては、全体の内容がアマチ
 ュア的な感があるのは残念である。

(山崎 敬)